

総務厚生委員会

7月10日から12日にかけて、広島県三原市消防本部、香川県小豆島中央病院にて行政視察を行いました。

■総務厚生委員会行政視察者

- 委員長 久一人
- 委員 芳良
- 委員 山本綾
- 委員 山内山崎
- 委員 吉住威三
- 副委員長 美洋
- 副委員 新能
- 委員 三美

◇広島県三原市消防本部

—視察目的

救急艇の導入経過と運用状況について

—主な視察内容

有人離島である佐木島、小佐木島からの救急搬送は、定期船・民間船舶により三原港等に患者が直接来て救急搬送していたが、それに対応するため、平成14年度に救急艇「かもめ」を導入した。

また、佐木島内での救急搬送は、地域住民の車で佐木港まで搬送していたが、地域住民から搬送手段の整備要望があり、「さぎしま急患搬送車」を導入した。今回は、救急艇の導入に至るまでの経緯や救急艇の導入経費と財源について、救急艇の活用状況について、ランニングコストについて、運用上の問題・課題等についてなどを研修した。

【主な質疑（一部抜粋）】

Q 佐木島内に、医療機関診療所などはあるのか。

A 診療所はあるが医師が常駐しておらず、常時でないが本土から通勤している。

Q 救急艇は、夜間も出動しているのか。また、荒天時に、出動するかどうかの最終的な判断は誰がしているのか。

A 救急艇は、気象状態が悪い時以外は、夜間も出動している。

出動の最終判断は船長（消防職員）がしている。



【三原市消防本部にて】

◇香川県小豆島中央病院

—視察目的

公立病院の再編・ネットワーク化について

—主な視察内容

過疎地域における医師不足の問題（医師の地域偏在、診療科偏在）と人口減少・高齢化の進展などに対応するため、また、医師、医療従事者の拠点を集約化し、安心安全な医療提供体制を確保するために、2公立病院（旧土庄中央病院（土庄町126床）・旧内海病院（小豆島町196床））を再編・統合し、小豆島中央病院（小豆島町13科234床）を新設した。（※旧土庄中央病院と旧内海病院は診療所とした）

今回は、公立病院の再編に至った経緯や再編の内容と財源について、住民の理解を得るための取り組みについて、医師の確保について、経営状況についてなどを研修した。

【主な質疑（一部抜粋）】

Q 統合後の医師数増（18人↓25人）の要因は何か？

A 旧2病院の時は、臨床研修医制度の影響による大学からの引き揚げで医師が減っていたが、香川大学独自の医師確保のための寄附講座制度などの効果より減少前の医師数に戻った。

Q 各自自治体にあった旧2病院を統合できた要因は何か？

A 既に2町間で、ごみ・消防などの広域行政ができていたこと、統合した場合の県（国）の基金からの財源の確保（約27億円）、新病院の建設場所（2町の中間地点）など、それぞれの公立病院の将来を見据え実現に至ったと考えている。



【小豆島中央病院にて】

産業建設文教委員会

◇文化庁（地域文化創生本部）

—視察目的

文化庁の文化観光の考えについて

—主な視察内容

地域文化創生本部（京都市東山区）は、地域の文化を支援しながら観光と連携、文化財等を資源として活用し、観光客からの収益により文化財を保存、伝承するサイクルとなる事業の展開が可能となるよう業務を行なっている。

民間の職員を含め約40人の職員で業務にあたり、本庁とインターネットを活用したTV会議による庁内会議の試行を行うなど移転に向けた業務を行なっている。今回は、文化財の保護・活用について、ユニークベンチャー（特別なユニーク会場（ベンチャー））についてなどを研修した。



【地域文化創生本部にて】

【主な質疑（一部抜粋）】

Q オランダ商館の館内や施設外の規制について、緩和できるものはないのか。

A オランダ商館は史跡をより良く理解するために復元されたものと思われる。目的以外に使用されることに規制がかかっている。

Q 技術の伝承について、文化庁の考え、支援は何かあるのか。

A 文化財保護法で、文化財の保存技術（庭園、石垣など）の維持が定められており、選定技術団体を認定し支援している。

◇清水寺門前会

—視察目的

清水寺と一体となった地域活性化・活動の取り組みについて

—主な視察内容

清水寺門前会は、行政からの支援を受けることなく、会員の会費および清水寺との協力関係により諸行事等を自力で行なっている。

また、独自イベントとして、平成4年から全国に先駆け、境内をライトアップした「清水寺の夜の特別拝観（春、夏、秋）」を行なっている。

平成20年3月には京都を警戒し、人々の芳縁を結び神として信仰、畏怖されてきた青龍を祈願する青龍会を結成し、清水寺から門前町での大郡会行の行道を行い賑わっている。

また、自衛消防隊を結成し、地域の自主防災も担っている。

今回は、門前会発足の経緯や取り組みの内容、活動についてなどを研修した。



【清水寺門前会にて】

【主な質疑（抜粋）】

Q 観光客が増加する中、接客対応は大事と思うがどのようにしているのか。

A 1970年代から高度成長時代とともに観光客も増加し今日に至っている。観光客への接客はそれぞれの商店が工夫しており、基本として行儀よく接するようにと常々話をしていっているところである。

Q 外国人観光客が増加する中、外国人に対応する接待はどのようにしているのか。

A 他国語に対応できる者を雇用するなど、各店舗に任せている。

■産業建設文教委員会行政視察者

- 委員長 神田全記
- 委員 元宏三
- 委員 池田田宏
- 委員 小山山田
- 委員 竹辻山
- 委員 松尾賢
- 委員 松本正
- 委員 山内清

7月17日から19日にかけて文化庁（地域文化創生本部）、清水寺門前会などの行政視察を行いました。